

信夫山の資源を活かした まちづくり検討委員会

第4回検討委員会

令和2年2月25日（火）

目 次

- 1 第3回委員会の振り返り
(方向性について)
- 2 保全に関する基本的方針
- 3 活用に関する基本的方針

1 第3回委員会の振り返り

- (1) 保全に関する基本的方針
- (2) 活用に関する基本的方針
- (3) その他のご意見

(1) 保全に関する基本的方針

(ページ番号、行番号については資料2参照)

<現状の調査、評価と周知(13ページ)>

- 17行目：学校教育
近隣の小学校においては是非お願いしたい。

<豊かな自然環境の保全(14ページ)>

- 9行目：地域住民
日頃生活の中で通行中に監視はできても時間を取って巡視するのは難しい。
- 維持・管理するために人的・金銭的な負担をどのようにすべきか。ボランティアやNGOに頼るもの長期的視点から難しいのでは。

(1) 保全に関する基本的方針

<風景と眺望の保全(17ページ)>

- 通行の多い場所から枯れ木等の伐採をお願いしたい。
- ボランティアの清掃に参加したが、公園周辺はゴミがあまりなかったなので範囲や時期を検討してほしい。
- ~見る・見える・過ごす~(キーワード)について(5行目)
 - 「見る」の漢字を「観る」にしては。
 - キーワードに「聞く」を加えては。
 - 「視る・聴くなど五官で感じる」にしては。

<公園の防災機能の充実(19ページ)>

- 道路の側溝に蓋をする案もあるが、あまり便利になりすぎると裏道としてスピードを出して通過する車が多くなるので心配。
- 安心安全ではなく、ある程度危険なところ（道が狭い、歩道がない等）もあることも周知すべきでは。

(2) 活用に関する基本的方針 (21ページ)

<人を呼ぶ仕掛けについて>

- Wi-Fiスポットを設け、自然・文化・歴史に関する情報を見られるほか、古関裕而と関連付けられないか。(古関裕而が作曲した学校の校歌を聞けるなど信夫山を“エール”=“応援”の場所にできないか。)
- 最先端の技術を使うことは大切。
例)ももりんウォーカー(ARを活用したアプリ)
- 簡単に使え、楽しみが加われば利用者は増える。
- 人が増えると見てほしいところと入ってほしくないところを分ける必要が出てくると思う。
- 県外からも人を呼びたいのかを明確にしてほしい。
- 「夜景100選」に福島県で唯一選出されている。地元でない人が夜だけ来ると安全面が心配。
- 若い人も行きたくなる楽しみのある場所がひとつ欲しい。

(2) 活用に関する基本的方針 (23ページ)

<信夫山へのアクセスについて>

- 都市計画道路を整備するのだから、アクセス道路も鳥居の辺りまで誰でもわかるようにしては。
- 入口がわからないという問題は解決してほしい。
- 競馬場からのアクセスも検討し、JRAと連携すればもっと人を呼べるのでは。

<歩行空間について>

- 「花」のイメージを具体的に示してほしい。
- 元々自生していた花々を復活させてほしい。
- 駅前や競馬場からプランターやキャラクター（わらじい等）のフラッグなどで信夫山まで導くと明るいイメージになるのでは。

(3) その他のご意見

＜古関裕而とのつながりについて＞

- 旧祓川橋は古関裕而の先祖が寄贈したものである。
- 古関家に縁のある墓や歌碑が信夫山にあるのでP.R.しては。

＜優先順位について＞

- まず「汚染土の安全かつ完全な搬出・放射線量の管理」や「『専門委員会』による資源の調査」等による“安心・安全・美しく尊い信夫山”の実現。

次に、「小学校の遠足やイベントの充実、県内外への観光アピール等」という流れが理想。

＜情報発信について＞

- 一番重要なのは情報を発信し続けることだと思う。発信の方法も広く浅くではなくある程度狭めた範囲に特定するのもひとつの手段かもしれない。興味のない人への情報伝達が課題。

2 保全に関する基本的方針

資料2により説明

3 活用に関する基本的方針

資料2により説明

本日の委員会をもちまして
「信夫山の資源を活かした
まちづくり検討委員会」
は終了となります。

ご協力ありがとうございました。